

「中小企業経営者にお知らせしたいATACの特徴」

財団法人大阪科学技術センター
ATAC 運営委員長 梶原孝生

2007年問題として団塊の世代が大量に定年退職を迎えることが色々な面で話題をさらったのはつい数年前でした。

企業にとっては、技術の伝承や技術の流出、またこれらの人々の不安解消など色々な問題がありました。一方、定年後の生活をどうするかは、そこに直面した人々にとってもまた大きな問題でもあります。

ある人はそのまま囑託のような形でその企業に残る人も居るでしょう。また、いままで出来なかった趣味の世界に余裕の出来た時間を注ぎ込む人も居るでしょう。しかし、技術者の中には、今まで培ってきた知識や経験を生かして中小企業の技術支援に努力してみようと覚悟を決める方も少なくありません。

ご存知のようにATACはまさにこれらの意志をもった連中の集まりです。そして、このATACのような企業OBが中小企業の技術支援をしている団体は全国に数多くあります。

ATACは毎年秋に、これらの組織の連携を深めるために『企業OB活用組織全国会議』というのを開催しています。この会議でわかったことは、活発な行動を続けているところもあれば、衰退の危機に直面しているところも見受けられました。この分岐点はいったい何なので

しょうか。

定年退職を迎えて、収入がゼロになるのは困るということで、幾らかの収入を確保したいと願ってこう言った行動に入る方もおられます。また、今までの知識や経験を活かすために隠居はせずここに生き甲斐を生もうとする人も居るでしょう。

しかし、これらはあくまでも自分中心の価値観です。これでは真の中小企業支援にはならないと強く思います。

あくまでも中小企業を元気にすることこそ我々自身の喜びと生き甲斐を感じる強い意志がなくてはなりません。勿論、こういった意識を強く持った組織も数多くありました。

この『企業OB活用組織全国会議』も昨年3回目を迎えました。東京、名古屋、三重、愛媛、山口などから16の組織が集まってこの意識を再確認した次第です。しかし、この頑張っている組織でもその大半は、その組織に所属するメンバーが個人として支援するというのが多かったと思います。

ここがATACとの大きな違いでした。ATACは月に2回、ATAC全員が一堂に集まり、現在行っているコンサルティングについて全員で徹底した討議が行われます。この討議を生かして進行中のコンサルティングを進めてゆくのですね。これによって、前述した支援の真髓を全員で再確認し、支援の方向性の確認、手段の適正化、より良い方法の模索などを行います。

ここにこそATACのコンサルティングの特徴があらわれています。確かに皆さんの会社に向いて支援に行くのはATACのメンバー数人ですが、支援はATAC全員で取り組んで知恵を結集しようとしています。

皆さん、是非この埋もれたOBたちの知識や経験、人脈を最大限に活かして明日へ向かって大きく羽ばたくことを考えてみて下さい。



2009年 企業OB活用組織全国会議の一場面